

県民アンケート調査結果等

次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

【調査概要】

1. 調査目的	• 本県の現状に対する認識や県政のニーズの把握
2. 調査対象	• 県内に居住の18歳以上の男女7,000名(無作為抽出)
3. 調査方法	• 調査用紙を郵送 • 調査用紙の返送またはWebにより回答
4. 回収数	• 2,819人(回収率 40.3%)
5. 調査実施期間	• 令和6年10月～11月

【回収結果】

	実数	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明
長崎・西彼地域	475	49	54	60	86	83	71	72	0
県央地域	459	63	44	65	77	64	82	63	1
島原半島地域	366	37	37	52	59	60	67	54	0
県北地域	449	38	46	71	84	62	79	69	0
五島地域	328	31	37	48	46	64	59	43	0
壱岐地域	339	39	40	40	49	56	57	58	0
対馬地域	393	42	49	54	58	56	67	67	0
無回答	10	2	1	0	0	0	0	1	6
合計	2,819	301	308	390	459	445	482	427	7

ウェイトバック集計においてはn=2,789人となる。

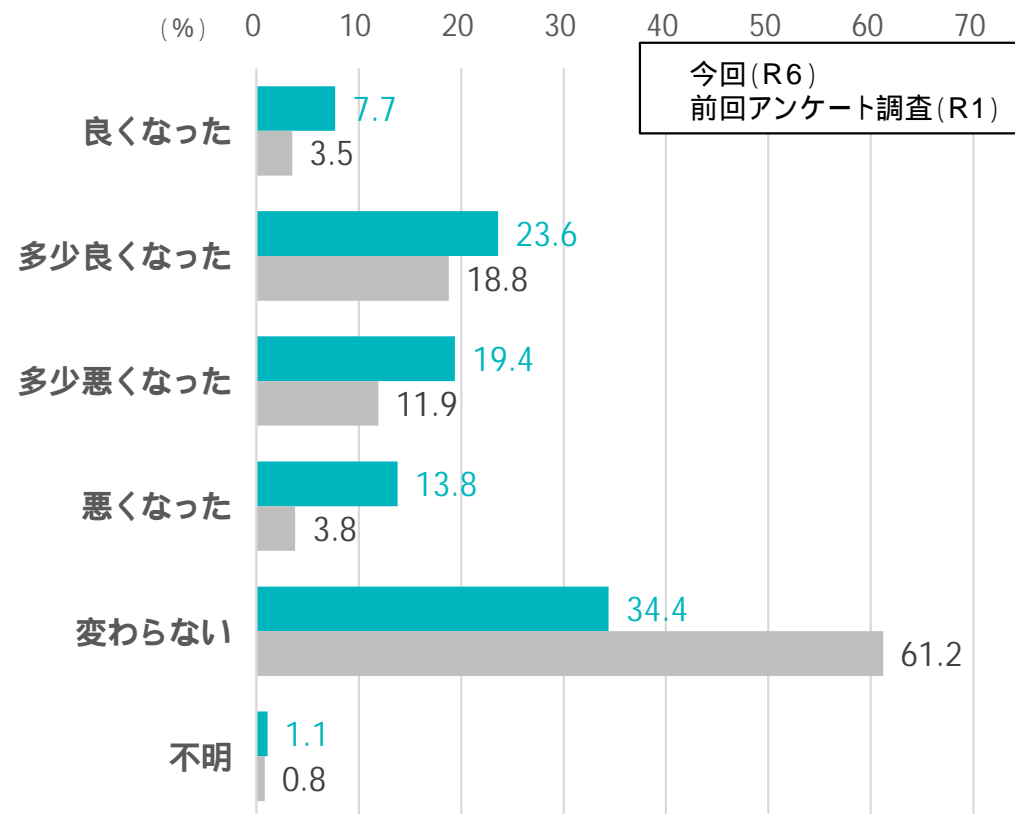
県民アンケート調査結果等

次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

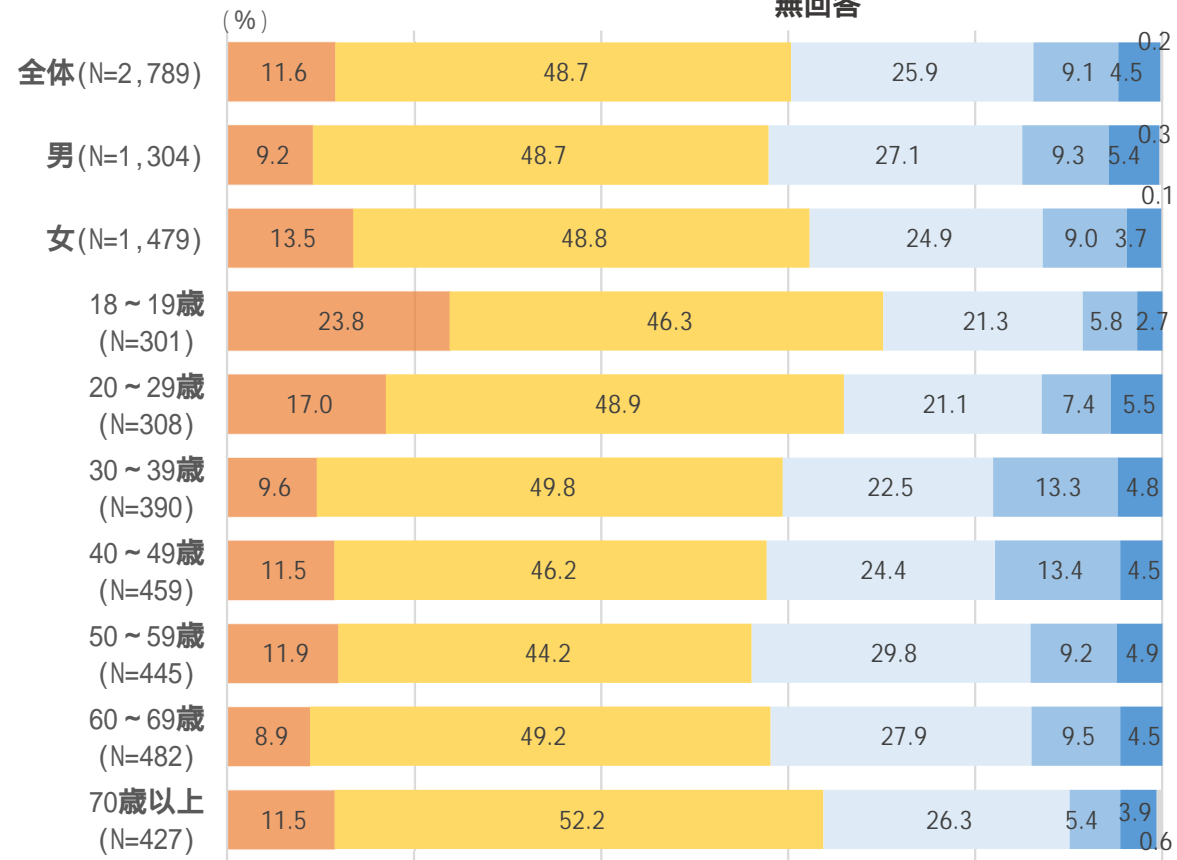
(県民の暮らしや価値観：暮らしやすさの変化、今の長崎県の暮らしやすさ)

- 前回調査と比較して「良くなった」「多少良くなった」の合計が9ポイント増加
- 前回調査と比較して「多少悪くなった」「悪くなった」の合計が17.5ポイント増加
- 県全体では「とても暮らしやすい」「どちらかといえば暮らしやすい」の合計が60.3%と約6割を占める

図表1 暮らしやすさの変化



図表2 今の長崎県の暮らしやすさ



とても暮らしやすい
どちらかといえば暮らしやすい
どちらともいえない
どちらかといえば暮らしにくい
暮らしにくい
無回答

県民アンケート調査結果等

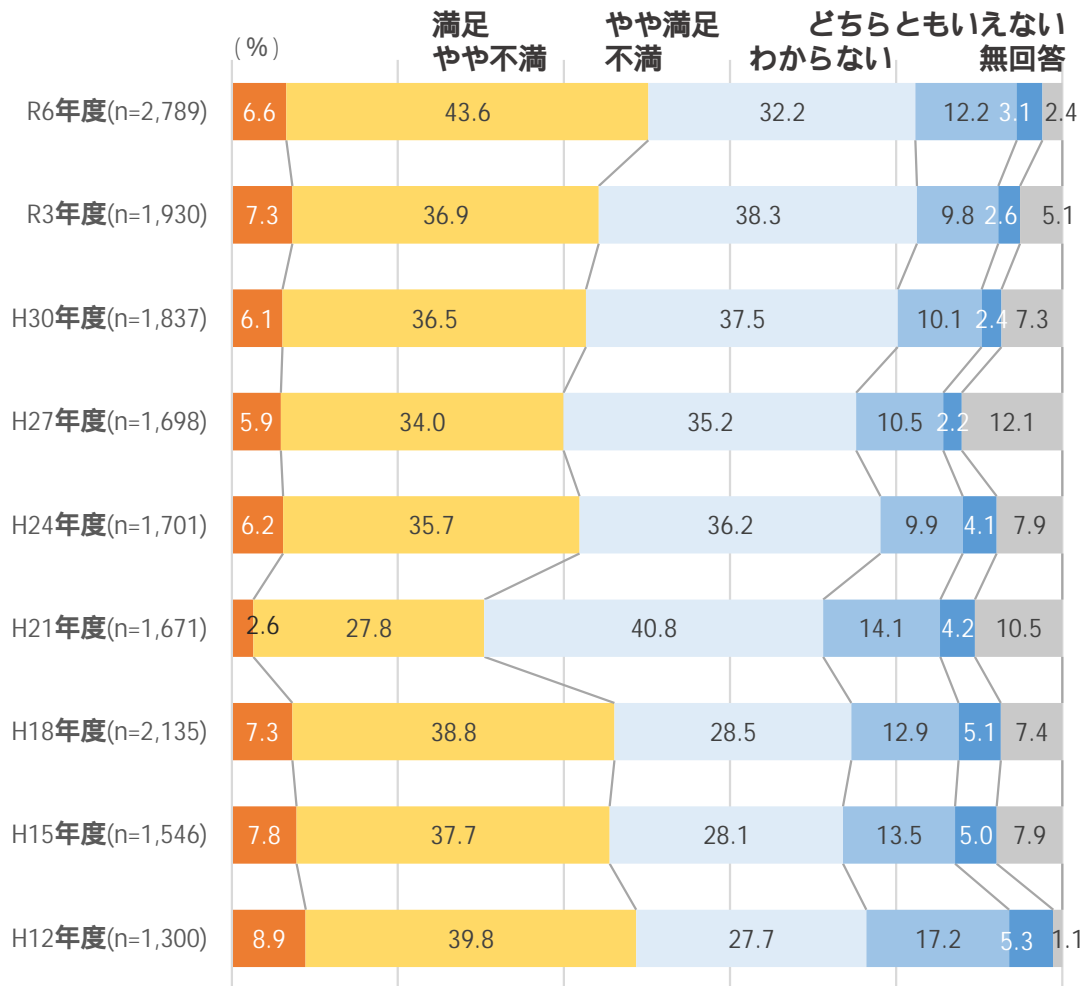
次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

(県民の暮らしや価値観：日常生活の総合満足度)

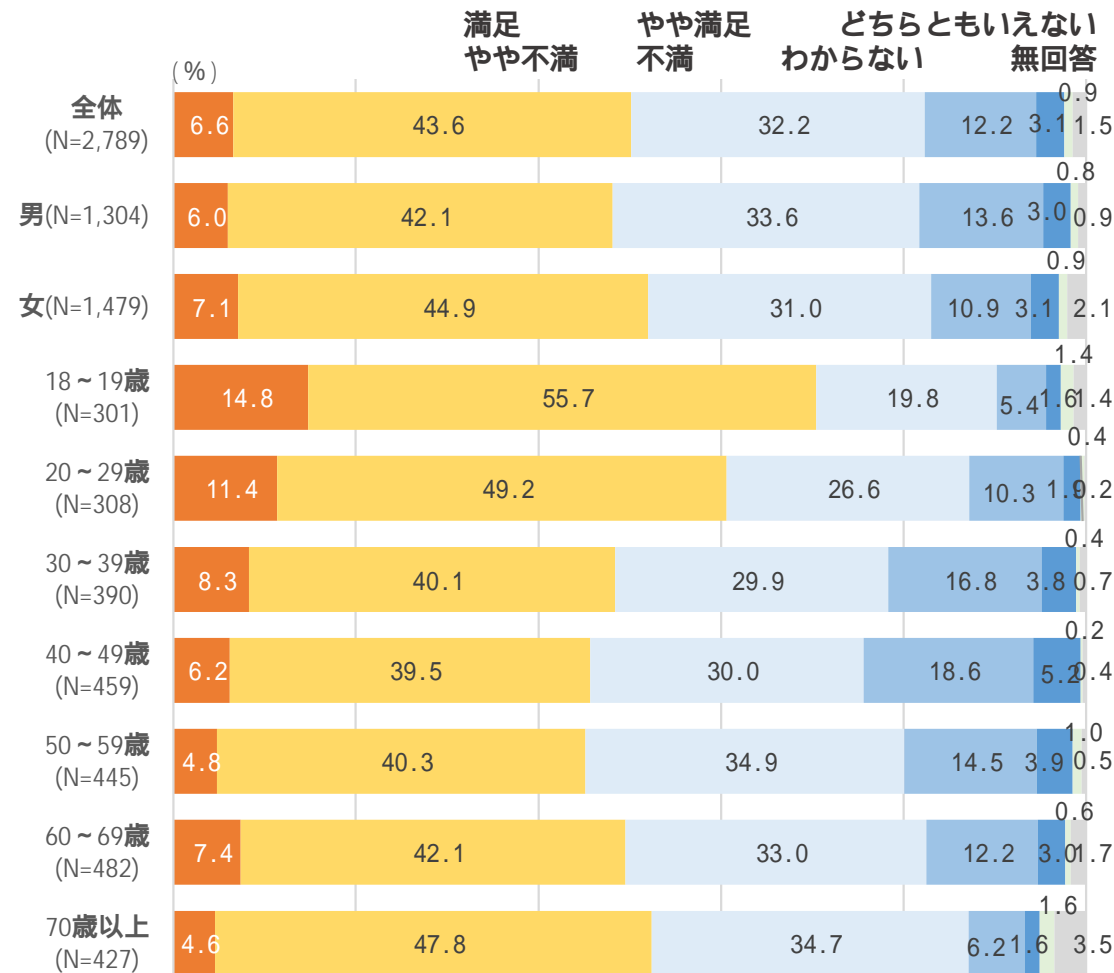
- 満足度…前回調査と比較して6.0ポイント増
- 不満度は10代の70.5%が最も高く、50代の45.1%が最も低い
- 不満度は40代の23.8%が最も高い
- 不満度は40代の23.8%が最も高い

※満足度…「満足」と「やや満足」の合計
不満度…「不満」と「やや不満」の合計

図表3 日常生活の総合満足度



図表4 日常生活の総合満足度(年代別)



県民アンケート調査結果等

次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

(県民の暮らしや価値観：日常生活の満足度(分野別))

- 前回調査と比較し、「子育てのしやすさ」「子どもの教育」「日常使う道路・公共交通」は満足度が縮小
- 「収入」「老後・将来の生活設計」は不満度が拡大

図表5 日常生活の満足度(分野別) は今回(R6)より追加した調査項目

今回(R6)
前回アンケート調査(R3)

	満足度		不満度		(%)	不満 ←		→ 満足	
	今回(R6)	前回(R3)	今回(R6)	前回(R3)		-50.0	0.0	50.0	100.0
住んでいる家	70.4	68.9	15.0	14.0				55.4 54.9	
自分及び家族の健康	65.8	61.6	14.4	15.2				51.4 46.4	
子育てのしやすさ	27.1	43.3	13.1	5.2				14.0 38.1	
子どもの教育	24.6	38.1	15.1	6.1				9.5 32.0	
医療()	41.0	—	24.8	—				16.2	
今の仕事の内容	36.5	37.9	15.2	12.0				21.3 25.9	
収入	25.5	29.7	41.5	32.3		-16.0 -2.6			
老後・将来の生活設計	15.5	18.4	43.0	38.7		-27.5 -20.3			
娯楽・レジャー	22.7	21.8	35.9	32.9		-13.2 -11.1			
教養・文化・スポーツ活動	23.6	18.2	22.8	20.1		-1.9		0.8	
交際・人間関係	45.5	42.9	11.2	12.7				34.3 30.2	
ボランティア活動への参加	15.6	9.7	7.6	12.3		-2.6		8.0	
日常使う道路・公共交通	28.5	36.5	46.5	26.7		-18.0		9.8	
日常の買い物()	48.2	—	29.1	—				19.1	
景観・自然環境()	72.2	—	5.9	—				66.3	
身の回りの安全・防災()	53.0	—	11.1	—				41.9	
地域()	35.0	—	11.9	—				23.1	
デジタルの浸透()	16.2	—	24.1	—		-7.9			

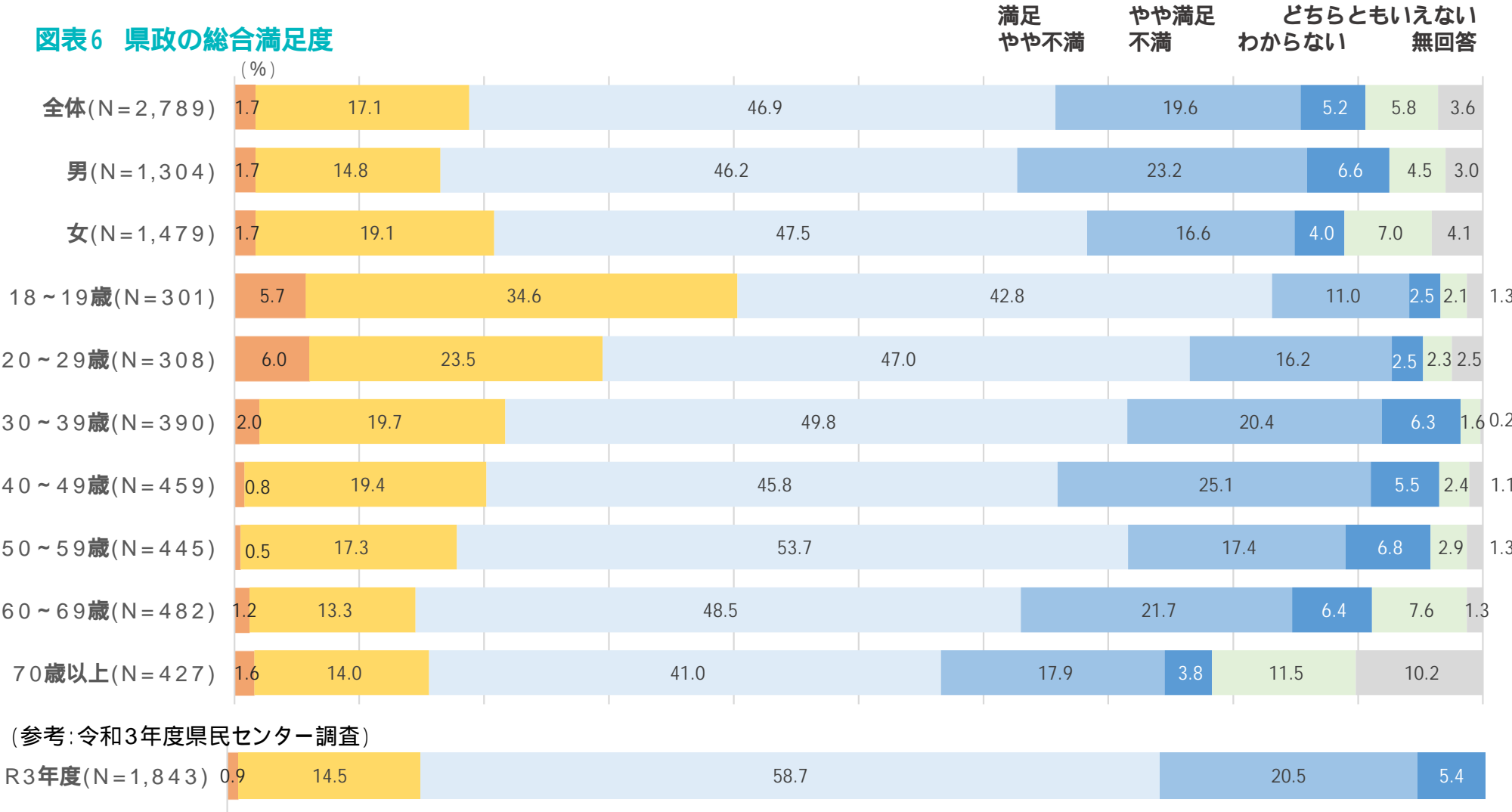
県民アンケート調査結果等

次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

(県施策のニーズ: 県政の総合満足度)

- 県全体では、令和3年度県民センター調査と比較し「満足」が0.8ポイント、「やや満足」が2.6ポイント上昇し、「どちらともいえない」が11.8ポイント減少

図表6 県政の総合満足度



県民アンケート調査結果等

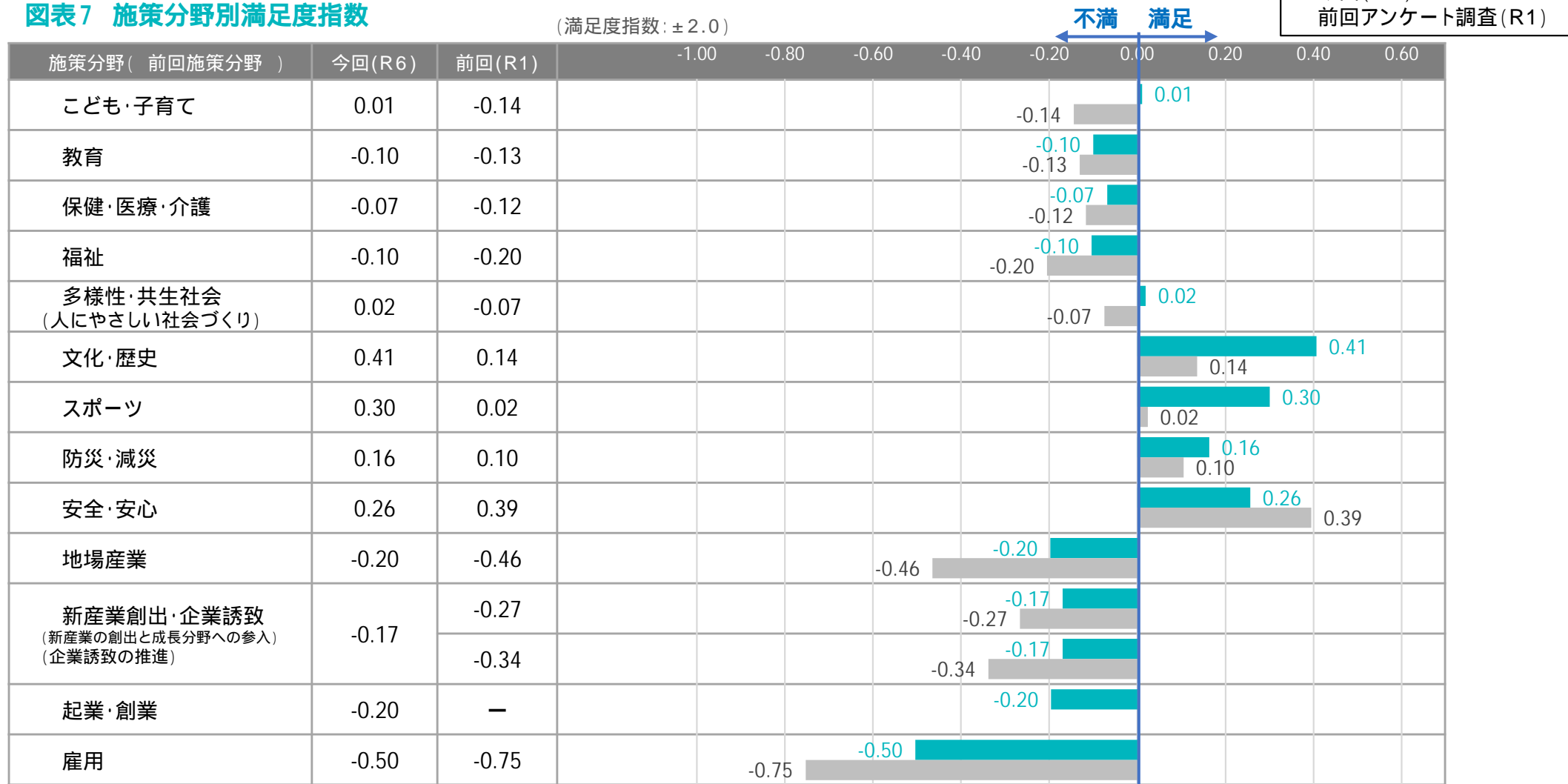
次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

(県施策のニーズ: 施策分野別満足度) 【次ページへ続く】

- 今回の調査で満足度指数が高かった分野は、「文化・歴史」「国際交流・平和」「観光」「スポーツ」「安全・安心」。
- 一方で、満足度指数が低かった分野は「雇用」「地場産業」「公共交通」「移住・関係人口」「離島・半島地域」。
- 新規分野を除く23分野中、16分野については満足度指数が5年前から改善している。

図表7 施策分野別満足度指数

(満足度指数: ±2.0)



満足度指数 = (「満足」×2 + 「やや満足」×1 + 「わからない どちらともいえない」×0 + 「やや不満」×(-1) + 「不満」×(-2)) / 回答数

県民アンケート調査結果等

次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

(県施策のニーズ: 施策分野別満足度) 【続き】

図表7 施策分野別満足度指数

(満足度指数: ±2.0)

不満 満足

今回(R6)
前回アンケート調査(R1)

施策分野(前回施策分野)	今回(R6)	前回(R1)	-0.80	-0.60	-0.40	-0.20	0.00	0.20	0.40	0.60
物産	0.13	0.20						0.13	0.20	
農林業 (農林水産業の振興)	-0.09	-0.09				-0.09	-0.09			
水産業 (農林水産業の振興)	0.04	-0.09				-0.09		0.04		
観光	0.33	0.42						0.33	0.42	
移住・関係人口	-0.11	-0.37			-0.37	-0.11				
まちなみ・景観	0.22	0.03						0.22	0.03	
国際交流・平和	0.35	0.40						0.35	0.40	
②①環境	0.08	0.06						0.08	0.06	
②②公共交通	-0.57	-0.45		-0.57	-0.45					
②③インフラ (公共施設の整備)	-0.23	-0.16				-0.23	-0.16			
②④デジタル・ドローン	-0.14	—				-0.14				
②⑤離島・半島地域	-0.27	-0.35			-0.35	-0.27				
②⑥住民参加	-0.06	—				-0.06				

満足度指数 = (「満足」×2 + 「やや満足」×1 + 「わからない どちらともいえない」×0 + 「やや不満」×(-1) + 「不満」×(-2))/回答数

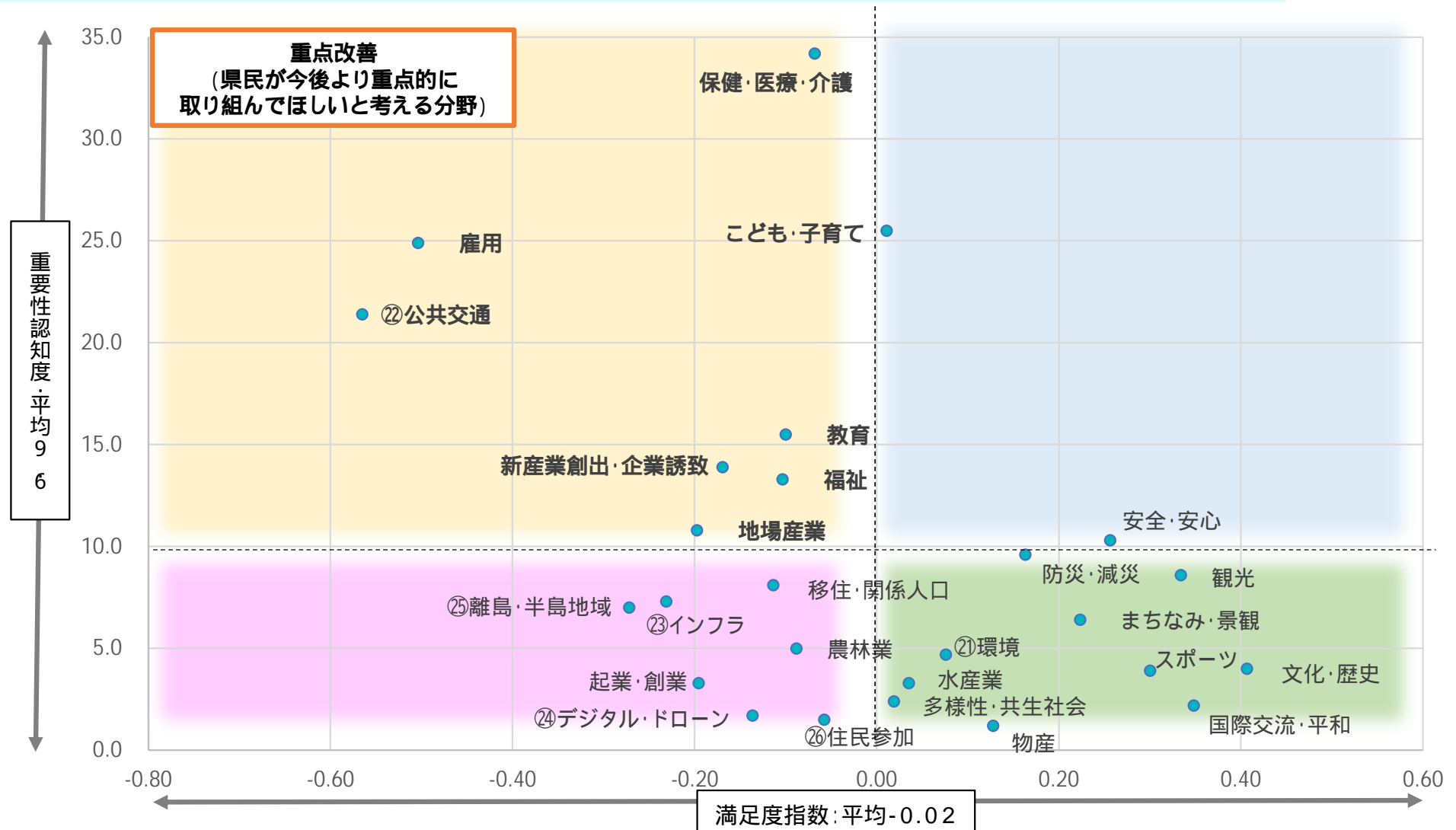
県民アンケート調査結果等

次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

(県施策のニーズ: 県政の満足度×重要性認知度)

- 県民が今後より重点的に取り組んでほしいと考える施策分野は、「保健・医療・介護」、「子育て」、「雇用」に関すること、加えて、県民の満足度が特に低い施策分野は「雇用」と「公共交通」に関する分野
- 前回(R1)調査時とほぼ同様の傾向であるが、「保健・医療・介護」の重要度が上昇
また、前回と比較し「雇用」については重要性認知度が低下し、「公共交通」については満足度が低下

図表8
県政の満足度×
重要性認知度



次期総合計画・総合戦略策定に向けた県政世論調査結果

(理想とする長崎県の姿)

- 10代から20代の若年層については、生活の利便性や教育、文化的体験への関心が高い。地元にとどまるための環境整備や楽しさを求める意見が多くみられた。
- 30代から40代にかけての中堅層・ファミリー層世代においては、子育てや働き方、地域社会への貢献などの意見が見られた。家族の生活や地域社会との調和を求める傾向がみられる。
- 50代以上のシニア層については、健康や福祉など安心して暮らせる環境の確保に対する意見や、地域の持続性に関する意見が多数みられた。

< 世代別の傾向 >

今後、長崎県がどのような県になってほしいか、理想とする長崎県の姿を自由記述により回答
世代ごとに頻出したキーワードやテーマを整理し、他の年代と比べて特に多いものを、その世代の特徴として抽出

世代	特徴	具体例
若者層 (10代～20代)	生活の利便性、教育、文化的体験への関心が高い。 地元にとどまるための「環境整備」と「楽しさ」を重視。	<ul style="list-style-type: none"> ● 教育環境の整備(進学、学びの機会の拡充) ● 若者が楽しめる娯楽施設やイベントの充実 ● 公共交通の利便性向上 ● 地元での就職やキャリア形成の支援
中堅層 (30代～40代)	子育てや働き方、地域社会への貢献がテーマ。 家族の生活や地域社会との調和を重視。	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育て支援(保育、教育費負担軽減) ● ワークライフバランスを重視した雇用環境 ● 地域活性化や住民参加型の取り組みへの関心 ● 医療・福祉サービスの充実
シニア層 (50代～)	健康、福祉、安心して暮らせる環境の確保が重要。 「安心して暮らせる環境」と「地域の維持」に重点。	<ul style="list-style-type: none"> ● 医療・介護の整備 ● 公共交通の維持や改善 ● 地域コミュニティや高齢者の集いの場の拡充 ● 持続可能な自然や地域の保全